

第25回全国経済同友会セミナー 終了後
記者会見発言要旨(未定稿)

日時:	2012年4月20日(金) 12:10~12:40		
場所:	富山国際会議場 2階 特別会議室		
出席者:	有富 慶二	全国経済同友会セミナー企画委員会	委員長
	長谷川閑史	経済同友会	代表幹事
	中尾 哲雄	富山経済同友会	特別代表
	高木 繁雄	同	代表幹事
	橋本 敏宏	同	特別幹事

冒頭、有富慶二 全国経済同友会セミナー企画委員会委員長、長谷川閑史 経済同友会代表幹事、中尾哲雄 富山経済同友会特別代表、高木繁雄 同代表幹事、橋本敏宏 同特別幹事より、第25回全国経済同友会セミナーについて総括コメントを述べた後、記者の質問に答える形で、①東京電力のトップ人事、②、③、等について発言があった。

有富: 二日間にわたって全国経済同友会セミナーを開催した。今朝七時半から最後の企画委員会を実施し、一日目の総括と今後さらに良くするための議論を行った。企画委員からは、富山の文化度が非常に高いというバックグラウンドがあって今回のセミナーが成功したのではないかという評価があった。具体的には、街中で小・中・高校生が必ず挨拶をしてくれることや、開会時の高校生の民族舞踊も素晴らしかった。また、今回の「日本は必ず甦る～復興とさらなる発展を目指して～」というテーマは、欲張った狙いだったかもしれないという懸念があったが、(今回の議論を)全国の経済同友会に持ち帰って各々で具体化するような方向性が決まったのではないかという印象である。基調講演では、島田晴雄千葉商科大学学長から強烈な問題提起と具体的な対応策の提案があり、その後の分科会でそれらを深堀りできたことも良かった。来年度は、5月23日～24日に岩手県盛岡市で開催することが決まった。個人的には、閉会の「風の盆」は、小説『風の盆恋歌』に出てくるシーンを実際に観ることができたこともあり、大変良かった。

長谷川: メインテーマ「日本は必ず甦る～復興とさらなる発展を目指して～」の通り、われわれ経済人だけではなく、政や官の世界でも、日本のリーダー的地位にある人々には、東日本大震災の後、それだけでなく弱っていた日本をいかに復興させるかという思いがあった。なかなか方向性が見出せない中で、それでも誰かが立ち上がって何かをしなければならぬという強い気持ちで、二日間の討議の中でも表れていたのではないかと。時期を得たテーマと適切な分科会の設定が選択されたことで、内容の濃い議論が盛り上がった。ただ、日本全体が直面している課題はいかにも大きく、皆が力を合わせて対応しなければ解決しない。にもかかわらず、今の政治は、適切・迅速に対応できる状況にない。それを見るにつけ、われわれが少しでももがき、努力することで、(政治の状況

に)風穴を開けることができればと思う。その意味でも、(参加した経営者が今回の全国セミナーでの)議論を等しく持ち帰り、さらに論議を深めて各々の立場で提言や実行という形で大きなうねりにしていく、そのきっかけになったのではないか。企画委員会の尽力、主催の富山経済同友会の万全の準備と心遣いに、心より感謝申し上げる。

中尾: 二日間の講演や分科会での議論を聴き、(昨年4月に全国経済同友会で緊急)復興アピールを出したものの、この一年、経済界は政治批判に力が入ってしまったのではないかと、自分たちの行動を少し反省している。かなり明確にテーマが決まってきたので、各地でもう一度検討し、実行に移していきたいと強く思った。主催者側としては、全国セミナーを富山で二回開催し、合計約2,000人に参加いただいた。(全国のメンバーとの)交流に大変満足しており、今後もいろいろな面でプラスになるだろう。富山の中心部の電線を埋めた景観など、きれいなところを見ていただき、良い印象を持ってもらえたのは嬉しい。富山経済同友会としても、もちろん経済には取り組むが、観光にも力を入れていきたい。(今回のセミナーへの)皆様の支援に感謝する。

高木: 初めての経験であり、長谷川代表幹事、有富企画委員長に深く感謝する。無事終わってほっとしたという心境である。特別講演「日本の将来と志ある外交戦略」において、谷内正太郎元外務事務次官が、「一国繁栄主義ということあり得ない。そのような考えでは自身の利益さえ守れない」と述べられていた。これは正にがれき処理にも言えることである。そろそろわがままから脱却し、皆でもう一度3.11を思い出し、力を合わせて、本当の意味で日本の復興のため、そして北陸や富山の地域の復興のために頑張る時ではないかと実感した。

橋本: 実行委員会としては、運営面で問題もあったが、全体的には良かったのではないかと考えている。1,000名を超える参加があり、総合テーマ「日本は必ず甦る」は、最後までこれで良かったのかという悩みもあったが、このテーマを基に各分科会も内容のある進め方ができ、結果として良かった。基調講演の島田氏、特別講演の谷内氏についても、最後まで迷いがあったが、結果は良かった。谷内氏については、時間の都合上、講演の途中でカットしていただいたのは申し訳なかった。また、富山の町や教育、子どもたちのしつけなどを褒めてもらい、富山の良さを知ってもらえて良かった。天気も良く、これからのエクスカッションで富山の観光を十分味わってもらえるだろう。無事に終わってほっとしている。

Q: 長谷川代表幹事に伺いたい。今後の原発事故の対処や電力改革を行う上で重要な東京電力の会長人事について、下河辺会長が任期1年で決まったが、どう受け止めているか。

長谷川: まず、(会長が決まる)時期が随分遅れた。本来であれば3月中には発表されている段取りであつたらうと推測されるが、昨日にまで至り、(選定に)難航したことは想像に難くない。その中で、下河辺さんに(会長を)お引き受けいただいたのは、まずもって大変良かった。任期の問題はあくまで噂で、任命側の政府とご本人との間で了解を得ているかも定かでない段階では、コメントは極めて難しい。本来であれば、会長というポジションでどのようなことをするのかについて任命する側とされる側が話し合い、それには

どの位の期間、どの位のサポーター・スタッフがいるかという話につながる。慌しい発表であったようだが、これからその辺りが詰まっていけば、当然ははっきりしてくると思うので、それを見守りたい。

Q: 会長は決まったが、これから社外取締役の人選もある。会長は経済界から出なかったが、社外取締役について、経済界として、経済同友会として、どう協力していくか。

長谷川: 今の段階では経済同友会に正式な要請は来ていないので、何とも言えない。大変な状況にあるので、要請があれば、経済界として協力したいとは思いますが、経済界全体にきちんと要請いただき、各団体が回答するのが最も望ましいので、要請をされるのであればそのような(全体への)配慮があると対応しやすい。

Q: 全国セミナーでは多様なテーマでの議論があったが、今回の成果として、ぜひ持ち帰って検討したいものがあれば、伺いたい。

長谷川: 私自身は中央におり、総括でも述べたように、国家戦略会議の議員という立場にもある。そういう立場を通じて感じている(こと、即ち)、理屈の上で考えれば当然やらなければならないことが実行されていない、相変わらず新しい戦略ばかりに注意がいき、最終的にはすっきりと決まらず、省庁という壁の中で分断される、という本質的・根源的な問題を、皆さんも同じように感じていることを改めて確認できた。これを正していく、修正・改善を加えていくことが、われわれの任務の一つであろう。地域の問題は地域で努力いただくと共に、中央が動かないと動かない部分が多いので、地域の皆さんの思いを汲んで中央の場でできるだけ政策へ反映できるように努力したい。

Q: 長谷川代表幹事と高木代表幹事に伺いたい。二閣僚の問責が可決され、政治状況が流動化しているが、所感を伺いたい。

長谷川: まず、各々の閣僚に求められる職責を果たすに相応しい人物を、首相に任命いただくことが大前提である。その点がどうであるかについては、論評を述べる立場にないのでコメントは控えたい。一方、参議院で、法的根拠も定かでない、10人が賛同すれば提出できるような問責決議という形で、それが可決されれば、実質上、慣行上は、結果として2ヶ月以内に辞任、あるいは内閣改造で(大臣が)退任する構図になっているようだ。極端に言えば、参議院が首相を問責決議し(可決されると)、過去にも例があったが、結果的に参議院が首相を罷免に追い込むことになる。このようなことは妥当であるはずがない。仮に(次の選挙で)自民党が第一党になり政権に復帰するとしても、今後も政権交代が流動的になることは明らかである。民主党にも野党時代にこの手法を使ったことを大いに反省いただかなくてはならないが、半世紀にわたって政権与党にいた自民党の方たちが、野党に下った瞬間にこういった手法を駆使して政局を混乱させることについて、もう少し高い視点から見て、いい加減このようなことから脱却してほしいと強く思う。

高木: 国会は、万機公論に決すべし、という大原則の上で、国民・県民の声を代表して議論

する場である。問責に加え、審議拒否などは断固あってはならない。

Q: 長谷川代表幹事に伺いたい。TPP への交渉参加について、野田首相はワシントンポストへのインタビューで、(日米)首脳会談での態度表明を見送ると発言した。こうした政治のスピード感について所感を伺いたい。

長谷川: 二日間、こちら(全国セミナー)に集中していたので、ワシントンポストのインタビューでの表明という事実は認識していない。もし事実であれば、大変失望したと言わざるを得ない。昨年の APEC で参加に向けた協議の開始を表明して以来、既に5ヶ月、6ヶ月が経っている。その間、協議は進んでいると思うが、日本の表明に続く形でカナダやメキシコも協議への参加を表明し、(これらの国で)かなり協議が進んでいることは想像に難くない。EU との交渉開始も公表されており、豪州との交渉は既に始まっている、また、ASEAN+3、ASEAN+6、日中韓 FTA など、いろいろなことが同時並行的に進む中で、TPP が前に進まないことはバランス上問題である。特に、日中韓において、TPP ほど高いレベルでない内容が協議されると、TPP に向けての足を引っ張る形にもなることを懸念している。4月30日の(日米首脳会談での)表明がないにしても、早急に(交渉参加)を表明されることを期待している。

Q: 関西電力・大飯原発の再稼働について、現在政府が地元と調整している。5月5日に北海道電力・泊原発が定期検査に入って停止すると原発がゼロになるが、今夏の電力需給と原発再稼働について、所感を伺いたい。

長谷川: 昨日の第二分科会で、定光裕樹資源エネルギー庁長官官房総合政策課戦略企画室長の話をお聞き、通常年のケースと猛暑のケースが提示されたので、電力需給見通しについての理解が深まった。いずれにせよ今夏は電力が不足する。特に、関西電力管内は原発依存度が高かっただけに、他の地域と比べてもその問題の深刻さがより大きいというのは容易に想像できる。事業者や家庭で、ある一定の節電やピークカットを行う必要があるが、それに加えてとなると、対応には限度がある。自社(武田薬品工業)では、薬の製造という性質上、ある程度の備蓄生産が可能なので、5月の連休を返上してできるだけの生産を行うことから準備を始めると決めているが、それでもまだ間に合わない場合については、電力需給の見通しははっきり見えないと対応しにくいという不安要素を抱えている。できれば、ストレステストが終わり、IAEA の評価もクリアし、30項目にわたる安全性チェック等もすべて済ませた段階で、地域の了解を求めて再稼働に持って行っていただくことが肝要ではないか。ただし、泊原発が止まったら原発がゼロになると言うが、個人的な見解としては、これ(再稼働)と直接関連付けられる問題ではないと思う。

Q: (大飯原発の再稼働について)地元をどこにするかという問題がある。京都府、滋賀県、大阪府の知事や市長が再稼働に慎重な見解を示しているが、これをどう見ているか。

長谷川: 経済同友会はこれにコメントする立場にはないが、福島第一原発事故で広域に被害

が広がったという事実をもって、周辺地域の自治体の長が懸念を表明されることは理解に難くない。さはさりながら、原発再稼動についてどこまでの範囲で自治体の了解を得るかについては、過去からのルールがあるので、まずはその中で理解を求め、範囲を拡大するかどうかは次のステップで考えることではないかと思う。

以上

(文責： 経済同友会 事務局)